



富山県議会をわかりやすく。

Seven Rivers



https://
fujidaisuke.com/
電話:076-471-7119

セブン・リバーズの定期読書の申し込みは、右のQRコード or お電話で! …………… >>>

[セブン・リバーズとは?]

富山平野を流れる、七大河川のこと。3000mの立山から深海1000mの富山湾に流れこむ急峻な七大河川の治水対策が、明治時代の富山県議会の大きな政治課題だった歴史を踏まえ、藤井だいすけ県政報告のタイトルにいたしました。

特集

30年後の富山県のため 今から取組むべきこと

人口減少は、
どこまで進む?

P2

富山県の
“豊かさ”は
本当なのか?

P2

生徒数減少で
学校がなくなる?

P3

公共施設等の
維持管理に
1兆円かかる?

P3

★マンガ風でレポート [P4~P6]
藤井大輔の2023年9月
議会質問をダイジェスト!

★富山県政トピックス [P7]



できっこないを、
やらなくちゃ!

アフターコロナで
地域活動が再始動!

2023年4月の県議選で
2期目の信任をいただいたこ
と、心より感謝申し上げます。
引き続き県政発展のために全
身全霊で頑張ってまいります。

5月には新型コロナが感染
症法上5類に移行し社会経済
活動に原則無制限に。これを
受け納涼祭などの地域活動も
4年ぶりに再開され、私も毎
週のように地域行事に参加さ
せていただいております。

やはり地域の皆さんと気兼
ねなく会話ができる状況は、
私にとって大変ありがたいこ
と。何気ない会話や笑い話か
ら地域や生活に密着した情報
が得られ、そこから課題に気
づくことが数多くあります。

アフターコロナ時代になっ
ても、エネルギーや物価が高
騰し続けており、豪雨災害や
鳥獣被害、不登校児童の増加、
慢性的な人手不足など多くの
難問が山積しています。その
難問から逃げずに向き合い、
生活者の視点を忘れずに活動
していくこそが私の使命。
希望と機会にあふれる富山の
実現に向けしっかりと努めます!

県のため、今から取組むべきこと

KENMIN NO GIMON

01

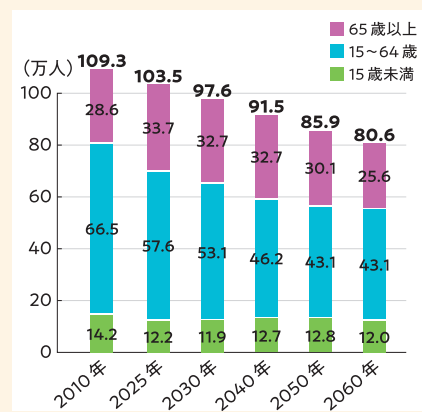
人口減少は、どこまで進む？

2060年に80万人維持を
目指すも出生率は上がらず

結婚・出産・子育ての
切れ目ないサポートで
少子化を止められるか

富山県が2015年10月に策定した人口ビジョンでは、2060年に80万人を維持する強気の目標が掲げられました。そのためには①結婚・出産・子育ての願いがかなう環境整備、②県外からの移住促進を進めることで2030年には県民希望出生率1.9を、2040年には人口置換水準となる出生率2.07を実現。加えて③2020年には若年層の大都市圏への転出超過を改善する、とあります。逆に言えば、①②③が実現できないと、60万人まで下がってしまうことを意味します。最新の出生率は新型コロナウイルスの影響もあり1.46に停滞しており、若者の大都市圏の流出も止まっていないので、人口ビジョンの実現は極めて厳しい状況と言わざるを得ません。

富山県人口ビジョンでの推計



子どもは地域の宝であり、未来への希望。子育て家庭を社会全体で支える仕組みが、まだまだ不足している

では人口減少と高齢化が進む未来はどうなるのか。あらゆる業種で深刻な人手不足が起こり、道路・下水道等のインフラや教育・医療・福祉サービス等を維持できなくなる危険性が。常識に捉われずあらゆる手段で減少を食い止める——ここの年の対策が正念場になりそうです。

富山県の人口は2023年10月末で100万6367人。このままでは2024年には100万人を割る。上記の人口ビジョンよりも早く人口減少が進んでいることがわかる

KENMIN NO GIMON

02

富山県の「豊かさ」は本当なのか？

経済的豊かさ・幸福度は
全国上位も若い女性は転出傾向

経済的豊かさランキング
富山県は第2位で
東京都が最下位の理由

世の中にはありとあらゆる都道府県ランキングがあり、すが、所得や経済的豊かさ、幸福度では、富山県は常に上位にランク。可処分所得は東京を上回って堂々の1位で、3世代同居や共働きが多いのがその理由です。また所得以外の通勤時間や生活に関連する物価をコスト換算した経済的豊かさランキングでは富山県は2位と上位ですが、所得3位の東京都は最下位に転落。所得が高くても通勤時間が長く物価も高いので経済的豊かさは悪化するようです。

幸福度においても前回の2位から4位に下がったものの富山県は上位をキープ。実際、県政世論調査でも県民の9割が富山県を「住みよい」と評価し、自然の豊かさ・食事の美味しさ・災害の少なさを誇

可処分所得上位5県（全世帯）

Best 5	都道府県	金額(円)
1位	富山県	464,635
2位	福井県	449,794
3位	東京都	436,475
4位	茨城県	423,543
5位	香川県	421,534

(国土交通省国土政策局調べ・2021)

経済的豊かさ上位5県（中央世帯）

Best 5	都道府県	金額(円)
1位	三重県	264,553
2位	富山県	259,642
3位	茨城県	258,190
4位	山形県	252,984
5位	福井県	250,532

(国土交通省国土政策局調べ・2021)

幸福度ランキング2022上位5県

Best 5	都道府県	2020順位
1位	福井県	1
2位	石川県	4
3位	東京都	3
4位	富山県	2
5位	長野県	5

(日本総研調べ・2022)

20代男女比率ギャップ上位5県

Best 5	都道府県	ギャップ
1位	茨城県	▲14.25
2位	栃木県	▲13.21
3位	福島県	▲12.25
4位	富山県	▲12.07
5位	滋賀県	▲11.35

(総務省統計局調べ・2020)

りに思っているとの結果に。一方、若い世代の県外への転出に歯止めがかからず、特に若い女性の転出が顕著。結婚出産適齢期の女性が県内に少ないことは、少子化にもつながります。若い女性にとっての「豊かさ」とは何なのか。ものづくり産業、3世代同居地域の連帯が強いなど、富山の強みが逆効果となっている可能性も否定できません。

20代男女比率ギャップというのは、富山県内にいる20代男性と20代女性の比率にどれだけ差があるかを示したものです。つまり、富山県では結婚適齢期の男女の数に差があり、男性が余ってしまう実態がある

だいすけが
皆さんのギモンに
答えます！



特集 30年後の富山

KENMIN NO GIMON

03

生徒数減少で学校がなくなる？

統廃合は避けられないが
地域再生の拠点としての価値も

10年後に7000人まで
生徒数が減少する衝撃。
高校再編が大きな論点に

新型コロナは少子化を加速
させ、2022年の富山県全
域の年間出生数は過去最少
の6052人となっています。
5年前から7000人を割っ
ており小中学校や高校の再編
統合議論は避けられません。
私が中学卒業した昭和63

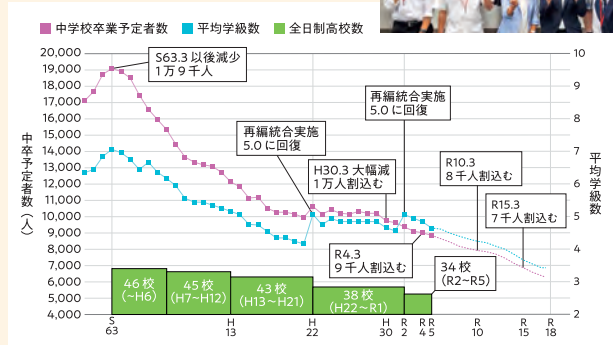
年頃の生徒数は1万9千人。
30年後の現在はその半分です
が、県立高校の数は46校から
34校を維持。その代わり1校
あたりの学級数や1学級の生
徒数は小さくなっています。
小規模校や少人数学級にし
方がきめ細やかな教育がで
きる、という意見がある反面
学校運営では部活動の人数が
集まらない、1人の教員への
負担増等の問題もあります。
文科省では小中学校は35
人学級(※1)、高校は40人学
級を標準として教職員の数を

算出。この数より教員が増え
た場合は、地方自治体の負担
となります。富山県では令和
6年度は約5千万円程度の追
加負担の見込みです。

国の標準が時代に即してい
ないとの議論も始まっていま
すが、何より未来を担う子ど
もたちにとって魅力ある教育
環境は何なのか。根本的な議
論が求められています。
※1:2025年まで段階的に実施



今後の中学校卒業予定者数の推移



▲ 高校生とやま県議会の一コマ。高校生から公立の中高一貫校設置の
話題があがるなど、教育環境の充実は関心度が高かった
◀ 10年後には高校生が7000人となりピーク時の約1/3に。当然、高校
の数も少なくなるのだが、再編統合の議論は非常にデリケートで難しい

KENMIN NO GIMON

04

公共施設等の維持管理に1兆円？

50年以上経過した施設も多く
保有総数の適正化を検討すべき

将来世代に負の遺産を
残さないよう、30年後を
見据えた議論が必要

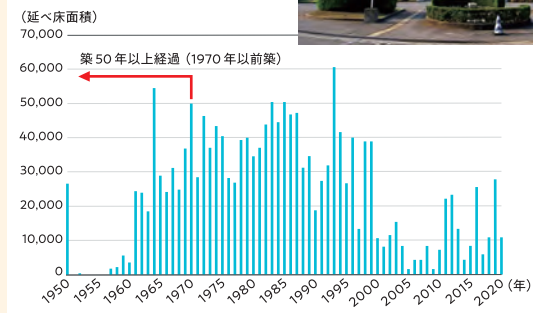
富山県武道館や高岡テクノ
ドーム別館など、県が新設す
る大型施設整備が物価高騰や
人手不足で計画変更を余儀な
くされています。一方、既設
の公共施設においても50年以
上経過し老朽化したものが多
く、その更新や維持管理に多
額の費用がかかるとの試算が。

富山県が策定した公共施
設等総合整備方針をひもといて
みると、今後30年間で必要
となる更新費用は、約9千億
円から1兆5千億円となっ
ています。耐用年数ごとに更新
していくよりも、長寿命化対
策をして耐用年数を超えて使
用する方がコストを抑えられ
るのですが、そもそも人口減
少下でどこまで施設やインフ
ラを保有していくべきなのか。
県ではファシリティマネジ
メント基礎調査を実施し保有

総量の適正化や、県と市町村
で機能が重複した施設のあり
方の協議を開始。50年以上経
過した施設やインフラは、倒
壊や崩落の危険性もあり、こ
れ以上先送りできません。
デジタル化や再エネに対応
した新しい施設を整備しつつ、
古いものは整理していく。将
来世代に負の遺産を残さない
ような対応が迫られています。



公共施設の老朽化状況



▲ 国の文化財として登録されている富山県庁は昭和10年の建設。スマート
オフィスの時流に合わなくなっている
◀ 延べ床面積で見ると、高度成長期やバブル期に多くの公共施設が建設さ
れたことがわかる。人口減少で利用者が減る施設を、いつまで残していくのか。

9月定例会の議会質問をダイジェスト!

令和5年9月 定例会
本会議
一般質問
2023.09.21



ザワザワ

2期目に
当選して
初めての質問!
武者震い
する……



今回のテーマ：人口減少の時代をあえて「ポジティブ」に考える!

- ① 人口減少下における富山県経済の持続的成長について (7問)
- ② 官民連携による地方創生について (5問)
- ③ 教育と地域の魅力化について (3問)

ババーン

新田知事に
おたずねします

企業の国内投資意欲が
過去最高のチャンス。
富山にも企業誘致を!

ゴゴゴゴ

教育水準の
高い人材を魅力に
誘致したい



新田知事

北陸電力の値上げもあり「安価な電力」
という魅力が低下している実態がある

2018年より
改善するも全国平均は
下回っている



川津
知事政策局長

男性育休取得率 15.6%、
テレワーク実施率 11%
とまだまだ低い

富山県企業の
働き方改革
どのくらい
進んでいる?

ビシッ



建築現場や
土木現場で
週休2日
制導入が進んだ



市井
土木部長

平成29年から4週8休
を進め、現在の達成率
が93.5%に

《ひとくち解説》

30年ぶり潮目の変化で国内経済復活の兆し?

経済産業省は2023年の産業構造審議会で「経済産業政策の新機軸」を打ち出しました。それに伴い、国家主導の半導体プロジェクト等への大幅な投資が計画されており、1983年以來の過去最高水準の国内投資の好況を持続させようと必死です。富山県内でも企業誘致を呼び込む絶好のチャンス。他県との激しい誘致合戦をどう戦うか、注目です。



出典：経済産業政策局「第2次中間整理後の進捗状況」2023.11

▲バブル後の失われた30年では、民間企業の設備投資は海外に向いてしまっていたが、2027年に向け国内投資が活況になると予測。賃上げも相まって“30年ぶりの潮目の変化”が起こるかも?

いっぱい質問しました！



©藤井かのん

マンガ風でレポート

藤井大輔の令和5年

キラーン!

県庁のデジタル化の進捗状況は？

県庁DX達成率は70%
ペーパーレスも進んでいる

企業版ふるさと納税もっと呼び込むべき

令和4年度は過去最高の6580万円の寄付があった



富山県のふるさと納税額は全国最下位クラス。企業からの寄付金も他県と比べて少ない現状がある

横田副知事がCDO(デジタル化の責任者)として県庁内のDXやペーパーレス化を進めてきた

コラム

企業誘致、空港再編、インバウンド観光 etc. 富山県のヒントが和歌山県にあった!

和歌山県と富山県は、人口も面積も似ているのですが、県民総生産は富山県が4.9兆円、和歌山県が3.7兆円。経済面では富山県がリードしている一方、地方が衰退していく危機感は和歌山県の方が強いこともあり、行政や民間の先進事例が数多くあります。

観光面では、世界遺産である熊野古道に外国人観光客を呼び込むために、同じく世界遺産のサンティアゴ巡礼道(スペイン)との共通スタンプラリーを企画。産業面でも、空港を巻き込んだワーケーションを実施しIT企業の誘致に成功。恵まれた環境でなくても、創意工夫で地方活性化する姿勢が素晴らしいと感じました。



◀2004年に世界遺産登録された熊野古道には年間5万人の外国人旅行客が訪れる

▼外国人が迷わないよう案内標識を統一。外国人視点の細かな配慮がされている



▲田辺市熊野ツーリズムビューローは地域DMOとして17年間運営。そのノウハウには学ぶべきことが多い



▲南紀白浜エアポートは「空港からの地域創生」の成功事例として全国から視察が訪れる

▲上は南紀白浜エアポートのサイト。下は田辺市熊野ツーリズムビューローのウェブサイト

富山空港に民間活力導入したら本当に活性化するの？



混合型コンセッション方式(※1)で一体化した運営を検討する

※1: 空港コンセッションとは滑走路とターミナルビルを分けずに一体的に運用すること。混合型とは公共と民間が共同して運営にあたること。

北陸3県の観光振興のためDMO(※2)設立を!



経済団体の提案もあったので設立に向けて検討していく

※2: DMOとは観光地域づくり法人と呼ばれ、官民連携で地域の観光資源を活かした町おこしをする組織

22 探求学習のためのコーディネーターを全県で2名配置し成果をあげている
荻布 教育長

21 高校の魅力化に向け専任コーディネーターを各校に配置しては？

19 20:39 発言残時間 4分 制限時間まであと4分

20 あと3問、間に合うか!?

20 ドキドキ

24 VRを使った仮想空間の中で、認知症患者になった体験をすると、当事者の視点からケアやサポートを深く考えられるメリットがある

25 VRを使った認知症の患者体験型研修を広めてはどうか？

26 傍聴に来ていただいた地域の方々
ちょっと難しかったかな……

27 未来志向の質問したけども抽象的になりすぎたか……

25 認知症の啓発イベントでVRを使った患者体験などを取り入れていく

25 有賀 厚生部長

23 ドドド

今回の議会質問を ふりかえって

100年後の富山県のために
何を残し、何を整理していくのか

2期目になって初めての一般質問にあたり、これまでの県議会での約400の質問を振り返りました。そこで感じたことは、これまで140年の歴史で、たゆまぬ努力をされた先人のおかげで現在の豊かな富山県があること。一方で、豊かさを支えてきた社会システムが、人口減少の急激な変化に耐えられなくなっていることの2点でした。

私の所属する自民党会派では「人口減少問題調査会」を設置。新しい将来人口推計では、日本の人口はこれから80年かけて6000万人まで減り、富山県も60万人程度になるとされています。80年後といえは22世紀。私も生きてはおりません。しかしこれまでの先人たちと同様、私たちが後進のために「何を残し、何を整理していくか」を決断する使命があります。「人口減少は、思うほど悪くない」——人口減少の時代をあえてポジティブに論じることで、未来への希望につながるものと私は信じています。

スマホやパソコンで もっと県議会を身近に！

議会の議事録が検索できる！ 「会議録の検索と閲覧」

過去の県議会の会議録が検索できる便利なサイト。平成6年からの本会議・予算特別委員会、平成12年からの政策討論委員会、平成13年からの委員会の会議録が登録されています。



<https://www.pref.toyama.dbsr.jp/index.php/>

議会の中継動画が見られる！ 「インターネット議会中継」

本会議の生中継がスマホでどこでも見られます。また録画中継では、直近の富山県議会の本会議および予算特別委員会の録画映像を、次の定例会招集日前までご覧いただけます。



<https://toyama-pref.stream.jfit.co.jp/>

だいたいで独自解説が読める！ 「藤井だいたいで公式LINE」

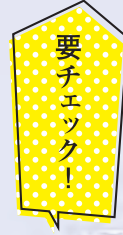
登録いただければ、メモ魔の藤井が議会中にとっている議事録や、藤井の独自視点での解説をアップします。県政報告誌のセブンリバーズや、オリジナル動画もご覧いただけます。



<https://lin.ee/AsXqb5A>

富山県政 TOPICS

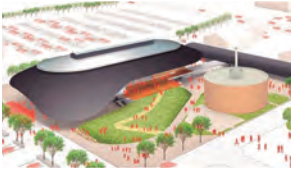
富山県政の課題はさまざまありますが、その中でも藤井だいが気がなった5つのトピックをピックアップ。県議会は市議会に比べて、身近な話題が少ないとの声もありますが、生活に密着した施策を取り上げてみました



TOPIC 1

電気料金や物価高騰対策など 県独自予算での支援を継続

これまで電気料金や物価の値上がりへの支援の元手だった、国の地方創生臨時交付金が9月末で終了。県としては、独自の予算を割いてでも（3.8億円相当）、病院／福祉／保育施設や事業者に対して激変緩和のための支援を継続することを決定。中小企業向けの県融資制度の100億円拡充も含め、2023年9月議会で約210億円の補正予算を可決した。



▲高岡テクノドーム別館の入札不調も物価高騰が一因



▲県の9月補正予算の詳細はこちら

TOPIC 2

6月7月豪雨の爪痕深く 復旧までに3年以上の箇所も

6月7月に富山県内を襲った線状降水帯による集中豪雨。その被害は県内で2800か所に及んだ。国の激甚災害の指定を受けたことによる国庫補助含め、約130億円を災害復旧対応経費として予算化。しかし土木設計技術者など建設人材不足や資材不足もあり、復旧までに3年以上がかかる箇所もあるとされる。被災者の方には心よりお見舞い申し上げます。



▲豪雨のため激しく洗掘された林道



▲県の被災者への緊急支援の詳細はこちら

TOPIC 3

過去最悪レベルのクマ被害 市街地でも対策が必要に

県内のクマの目撃情報は10月末現在で過去最多の243件。民家で女性が亡くなる事故を含め人身被害も6件起きている。富山市の市街地でも目撃が相次ぎ、新庄や藤ノ木エリアでも警戒が必要となっている。富山市では緊急対策として草刈り・果実つみとりなど上限8万円の補助予算を増額し、地域ぐるみでの対策を呼び掛けている。



▲富山市のクマ対策サイトはこちら

◀私の地元である富山市新庄地区でもクマの足跡が

TOPIC 4

不登校児童生徒が増加 子どものサポート体制は？

県内の不登校状態にある小中高生の数が過去最多の2675人となり、特に小学生の増加率が高くなっている。県内でも校内フリースクールや不登校特例校の設置や学校以外の居場所づくりの議論がされており、子どもを主体としたサポート体制を強化する。県としても富山児童相談所の機能強化や児童心理治療施設の設置に向け、実施計画を策定中だ。



▲「山梨県子どものころサポートプラザ」が先進モデル

TOPIC 5

技能実習制度が変わる！ 外国人材とどう向き合う？

あらゆる業種で人手不足が深刻化しており外国人材の活用は国家課題となっている。国は技能実習制度の見直しを検討しており、労働者として日本に定着できる制度にする意向。これまでの制度は国際貢献が前提で、日本で技術を取得した後は母国に戻ることに。今後は、外国人から選ばれる富山県となるために、多文化を許容できる風土づくりが重要となる。



▲私が所属する介護施設でも外国人材が大活躍

「県議会、どうでしょう!？」

第10回 / 議員の視察って必要？

県議会には摩訶不思議なできごとや出来事がいっぱいあります。そんな県議会の不思議に2期目の藤井だいすけが、さながら潜入取材のごとく体験レポートをお届けいたします。思わぬ本音が漏れることも？



議員 藤井大輔

とある国会議員の“エッフェル塔ポーズ”や、とある市長のビジネスクラス問題など、公費を使っただけの視察や出張が、何かと注目を集めた2023年。そもそも、なぜ議員に視察が必要なのか——今回はその意義について考えてみたいと思います。

私が行った主な県内視察先は、①道路や橋梁、ダムなどの社会インフラの現場 ②災害や被害が起こった現場 ③県立高校や病院、公園など県管理施設の現場。年間100か所以上は回りました。百聞は一見にしかず、の言葉通り、予算化や優先順位の判断をする際に、現場で感じたことはとても役立っています。

次に県外視察先ですが、2023年は山梨県、長野県、茨城県、和歌山県、福井県、広島県、愛媛県、高知県、香川県に行っています。いずれの視察先も、富山県の抱える課題に対し何かしらかの対策を講じている先進事例がありました。

例えば山梨県では発達障害や心の問題を抱える子どものケアのために、病院＋児童相談所＋治療施設＋特別支援学校がセットになった施設があります。まさに富山児童相談所の機能強化のモデルになります。また和歌山県では赤字の南紀白浜空港を官民連携で再生している事例があり、こちらも富山空港での民間

活力導入に大いに参考になると考えています。

視察の意義を一言で表すと「失敗を減らす」こと。私はリクルート時代の経験からも、0から1を産み出すときは、たくさんの失敗が必要。しかし県の事業は大切な税金が原資ですから、極力失敗は避けるべき。他県の先進事例を学び、富山県で応用していくことで失敗を減らせます。旅行や遊びと勘違いされぬよう、視察の成果をしっかりと議会で反映してまいります。



左上 / 6月豪雨で緊急放流した白岩ダム視察。木材や土砂流入が大量に流れ込み、復旧までは3年以上
右上 / 山梨県の子どものこころサポートプラザを訪問
左 / 南紀白浜エアポートの岡田社長から「空港型地方創生」の熱いプレゼンを拝聴

藤井だいすけをもっと身近に！

1 セブンリバーズ定期読者の 申込は公式サイトから！

藤井大輔県政通信「セブンリバーズ」は年2回～3回程度発行しています。定期読者ご希望の方は、こちらのQRコードもしくはお電話でお申し込みください。

公式サイト: fujiidaisuke.com
電話: 076-471-7119



2 公式 X および 公式 LINE のフォローを！

藤井大輔の議員活動はもちろん、大輔が気になったニュースや話題をピックアップしてお届け。公式 X はほぼ毎日、公式 LINE は月2回程度更新しています。

公式 X (旧 Twitter):
https://twitter.com/fujii_toyama
公式 LINE:
<https://lin.ee/AsXqb5A>



3 公式 YouTube では 富山県政大喜利を更新！



富山県政の課題を“大喜利”で解説する1分動画を企画しました。お時間あるときにぜひご覧ください！

公式 YouTube:
<https://www.youtube.com/@fujii-daisuke>



藤井大輔 (ふじい・だいすけ) プロフィール

1973年(昭和48年)1月19日富山市生まれ。新庄幼稚園、新庄小学校、新庄中学校で育つ。富山中部高校、大阪大学経済学部を経て、95年株式会社リクルートに就職。2004年にはフリーマガジン『R25』を創刊し、編集長に。40歳を機に地元・富山市に戻り、福祉事業に携わる。社会福祉士の国家資格を持ち、地域包括支援センターや就労支援事業所の職員としても勤務。著書に『R25のつくりかた』(日本経済新聞出版社)、『議員という仕事』(共著・CAP出版)がある。19年4月富山県議会議員に初当選し、現在2期目。県議会最大会派の自民党富山県議会議員会で、副政務調査会長を務める。24歳の長男と16歳の長女の父。

藤井大輔へのお問い合わせは
下記までご連絡ください！

藤井大輔事務所
TEL: 076-471-7119
FAX: 076-471-7129
Email: d-fujii@fujiidaisuke.com

